

香川県における小麦の新奨励品種「ダイチノミノリ」について

多田伸司・藤田究・馬淵繁樹*・高橋秀彰**・萩森福督***

「ダイチノミノリ」は農林水産省九州農業試験場で「関東 85 号」と「西海 144 号」(のちの「アサカゼコムギ」)の交配の後代から育成された。本県においては 1984 年より奨励品種決定調査に供試し、その特性を調査した。

この品種は「セトコムギ」に比べて、出穂期および成熟期は 1 日程度早い早生種に属し、短稈で、耐倒伏性は強かった。穂数は中で、穂が大きく収量性は高かった。粒は大きく、豊満で充実がよく、見かけの品質はよかった。また、製粉性、製めん性は「セトコムギ」より優れていた。

このように「ダイチノミノリ」は栽培特性および品質が良好であったことから 1988 年に県の奨励品種に採用された。

また、播種期および施肥法について検討した結果、「ダイチノミノリ」は早生で早播条件では、「セトコムギ」より凍霜害が発生しやすく、全量基肥では生育後半の肥料切れによって低収となる年があった。従って、「ダイチノミノリ」の安定栽培には、播種期を 11 月 10 日頃とし、2 月～3 月の追肥の施用が効果的であった。